

広島大学文書館

豊田雅幸

近年、国立大学においても、法人化を契機としてアーカイブズセクションを設置する動きが盛んである。こうした中、広島大学では、「吟醸酒のふるさと」としても知られる東広島市の西条キャンパスに、先駆的な取り組みをみせる「広島大学文書館」を設置している。

ユニークな組織

同文書館は、二〇〇四年四月、国立大学法人化とともに設立された教育・研究施設で、「本学（広島大学）」にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する記録の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと」を目的としている。

「文書館」というその名称からもわかるように、単に大学に関する歴史資料を扱うだけではなく、「法人文書管理の最終管理機関」としての役割を担っている。こうした傾向は、情報公開法や独立行政法人個人保護法といった法律の影響を受ける、国立大学一般にみられるものだが、同文書館のユニークさは、それを実現するための組

織形態にある。

すなわち、それは、大学史を担う「大学史資料室」とともに、法人文書を扱う「公文書室」を置き、二室体制をとっている点である。

現在では、九州大学文書館でもこのような二室体制を採用しているが、他には例がないものと思われる。

この「公文書室」においては、保存年限を過ぎて移管を受けた文書群を目録化することによって、「現在の大学行政」に寄与している。しかし、それだけではなく、法人の「組織共用文書の作成法についてのマニュアル」をも作成し、法人全体の「執務の合理化」へも寄与しているというのである。さらに、これら法人文書を一般に公開することで、「対外的な説明責任を負う機関」ともなり得ている。

このような、現用文書と非現用文書の一体的な管理を念頭に置いた取り組みと、それを可能とする組織形態が、同文書館の大きな特色といえよう。

立教もそうであるが、私立大学のアーカイブズセクションでは、法人文書の管理を基幹業務に位置づけているところはそう多くはないであろう。もちろん、保存年限を過ぎた文書を受け入れ、目録化することはあるが、文書作成法マニュアルを作り、「執務の合理化」へ貢献するというのには、程遠いのが現状ではないだろうか。

一方、「大学史資料室」においては、私立大学などが軸足を置いている、大学史にかかわる事業が展開される。

こちらの取り組みにおいて特筆すべきは、大規模な個人文書の文庫化を行っている点である。その狙いは、初代学長森戸辰男にはじまる広島大学の個性「平和を希求する精神」を明らかにすることであり、「森戸辰男記念文庫」と「平和学術文庫」が設置されている。

このうち、前者は、約二万三千点に及ぶ大部なものである。他方、後者は、「広島大学関係者の携わった原爆被害の実態解明や平和への取り組みに関わる資料を集積した資料群」で、故金井利博氏（元中国新聞論説主幹、旧制広島高等学校卒）、平岡敬氏（前広島市長、旧制広島高等学校卒）、故大牟田稔氏（元広島平和文化センター理事長、文学部卒）の旧蔵資料を中心に構成されているものである。

また、これ以外にも、「歴代学長文庫」の整備が予定されているとのことである。

戦略的な事業展開

こうした二室体制を機軸に、さまざまな個別事業が「戦略的」に展開されているのも、同文書館の特色である。近年、多くの大学において導入されている「自校史教育」も、「総合科目 広島大学の歴史」として展開され

ているが、注目されるのは、オープンキャンパスの展示や、「総合科目 広島大学のスペシャリスト」の開設による「大学運営への参画」や、公開講座（「広島から世界の平和について考える」「我が家の近代史」）やオーラルヒストリー（前広島県知事竹下虎之助氏の回顧録出版）による「地域貢献事業」等、多方面において、積極的な事業展開が試みられていることである。

これらの取り組みは、学内における同文書館の存在意義を積極的にアピールするとともに、対外的にも、「ミニ東大」ではない、個性豊かな地方国立大学としての広島大学を打ち出すことに一役を買っている。

館長の小池聖一氏は、同文書館のホームページ上で、「広島にしかないオンリーワンの大学文書館」としての活動を、今後の抱負として述べている。

広島大学文書館のこれまでの取り組みから学ぶものは非常に多いが、同館の今後の取り組みからも、ますます目が離せなくなりそうである。

【広島大学文書館】

開館 日：月曜日・火曜日・水曜日

(ただし祝日、一二月二八日、翌年一月四日を除く)

開館時間：九：三〇～一六：三〇

利用申込時間：九：三〇～一四：四五

一三：〇〇～一六：〇〇

問い合わせ先：〒七三九一八五二四

広島県東広島市鏡山一丁目一番一号

電話：〇八二一四二四一六〇五〇

FAX：〇八二一四二四一六〇四九

e-mail：bunshyokan@office.hiroshima-u.ac.jp

